

実践こうべ学「六甲山生活文化史」

～昭和初期の六甲山を探る～

香西 直樹

はじめに

実践こうべ学「六甲山生活文化史」の講座は、兵庫県立神戸生活創造センター、兵庫県立人と自然の博物館、六甲山自然保護センターを活用する会の共催で2005年10月に4回にわたり研修が実施されました。

目 的

- 六甲山は、阪神間に生活する人々に潤いを与えてくれる貴重な自然環境である。
- その六甲山の歴史を振り返ることは、今後のあり方を考えるうえで意義のあることである。
- 昭和初期は、六甲山の隆盛期であり、阪神間モダニズムが花開いた華やかな時代にもかかわらず意外に知られていない空白期でもある。
- 参加者が市民研究員として主体的にフィールドワーク（野外調査）をすることで、歴史や生活文化を見直し、今後の「六甲山と人々の関わり方」を提言する。

内 容

- 第1回 ガイダンス 基調講演「昭和初期の六甲山」講師 宮崎ひろ志氏（人と自然の博物館）
- 第2回 講演「六甲山開発史」講師 森地一夫氏 フィールドワークの事前準備
- 第3回 フィールドワーク、六甲ケーブル山上駅、神戸ゴルフ倶楽部、ヴォーリズ設計の六甲山荘、登六庵等見学
- 第4回 体験発表 ABCDの4チームに分かれて発表



Bチームの体験まとめ

<要点>

- 六甲山の開発史及び阪神間モダニズムは、居留地に住む外国人が大きな役割をはたした。
- 六甲山上の開発は外人村と呼ばれた別荘群、日本最初のゴルフ倶楽部などから始まった。
- 昭和に入って交通革命が到来した。駕籠屋の廃業。ロープウェイ、ケーブルの開業、ドライブウェイの開通。
- 昭和初期は、阪神と阪急による六甲山上開発競争の時代
- 昭和初期の時代背景は、満州事変勃発、労働争議、財閥企業の倒産、銀行破綻、世界恐慌という混沌とした時代であった。

<発見>

六甲ケーブル山上駅

- 六甲ケーブルの営業は、1932（昭和7）年に鋼索鉄道として開業された。
- ケーブルのワイヤーは、使用するうちに伸びるので毎年切断して調整しており、6年に一度は新しいワイヤーと交換している。
- ケーブルカーが衝突せずに交差できるのは車輪に秘密が隠されていた。
外輪はレールを挟み、内輪は鍔がなく平坦になっている。
- 重厚な駅舎は、開業当時の姿をそのまま残し、2000（平成12）年、第1回「近畿の駅百選」にも選ばれている。
- 駅舎の外壁には阪神タイガースではなく、ライオンのレリーフがあった。
- 駅舎横の展望台は、昭和天皇ご行幸以来、天覧台といわれるようになった。
- 六甲ケーブルの歴史を振り返ると、1938（昭和13）年神戸大水害、1967（昭和42）年集中豪雨災害、1995（平成7）年阪神淡路大震災等の自然災害をのり越えてきた。

神戸ゴルフ倶楽部

- イギリス人、A. H. グループにより日本最初のゴルフ場が造られ、105年の歴史がある。
- 1929（昭和4）年にサンドグリーンからグラスグリーンに変わった。
- 1929（昭和4）年までは、六甲山上のゴルフ場まで駕籠で登っていた。
- 2番ホールは、唯一創立当初からのコースで神戸の街を一望できたことから「k o b e」のニックネームがついた。今は残念ながら樹木に視界が隠れて一部しか見ることができない。
- 日本のプロゴルフ界の創成期に活躍した一流プロがぞくぞくと誕生した。

登六庵（山頂名物ライスカレーの店）

- 1925（大正14）年に茶店「登六庵」は創業した。
- ハイカラ文化の興隆期、ライスカレーは庶民にとって憧れの食べ物であった。

六甲山荘

- 米国の建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（1880～1964年）の設計により、1934（昭和9）年個人の別荘として建てられた。
- 1975（昭和50）年甲南女子大学の所有となり、学生の研修所として利用されてきた。N P O 法人「アメニティ2000協会」が年数回見学会を開催している。
- 六甲山上は湿度の高い環境条件にも関わらず、72年を経た今日においても雨漏りひとつしない、建具の不具合ひとつない、耐久性のある建物を設計しているヴォーリズはすごい人だと感動した。
- 納戸の仕組み、窓、戸袋、敷居等細部にいたるまで使用者の立場に立った心遣いがされていることに驚いた。
- ヴォーリズの設計による建物は、神戸女学院（西宮市）、関西学院大学上ヶ原キャンパス（西宮市）、大丸心斎橋店（大阪市）、豊郷小学校校舎（滋賀県犬上郡）など1400以上にもわたると言われている。
- 門を入った敷地の路傍にはオオイワカガミが植えられていた。

<失敗>

- 日程調整の誤り。神戸ゴルフ倶楽部を見学した際、ゴルフ大会と重なり支配人のご好意にもかかわらずゴルフコースの見学はできなかった。機会があればゆっくりと時間をかけて詳細に見学したい施設であった。
- グループさんが乗った駕籠の複製品はどこかに保存され、展示されているところはあるのか？調べ忘れた。

<今後の課題>

- 村上ファンドが六甲山の事業を見直すよう要求しているとの新聞記事が掲載された。
- 六甲山を活性化するには、何が必要なのか？
- 老朽化して利用されなくなった保養所の今後は？

<提言>

- ハイキングコース、遊歩道の整備を推進し、自然の中を楽しく、安心・安全で快適に歩ける環境を確保する。
- 三国池の畔、グルーム別荘跡地（101番）周辺を整備し、グルームミュージアムを創る。
- センター機能を有する広場を整備し、六甲山全体で魅力ある空間を創造する。
- 山上施設間の移動アクセスの利便性を向上させるため、幌馬車風などの巡回バスを走らせる。